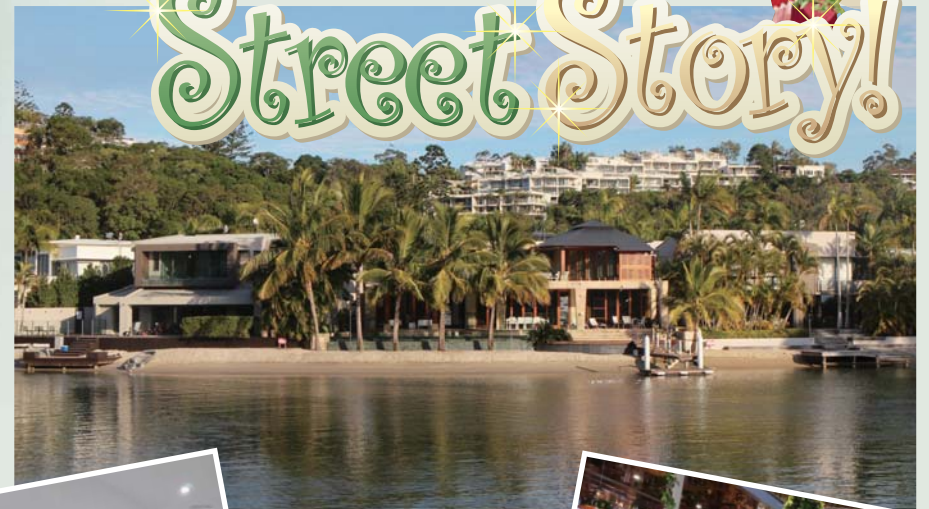








# Street Story!



## 新たな気づきを社員全員で共有し次のステージへ 池原建設視察研修。 県外・海外の住宅事情から学んだこと

日常の環境を離れ、外に出て初めて気付くこと、外から見て初めて知る自分たちの姿があります。私たち池原建設では住宅・建築の視察研修のため、今年7月に設計スタッフら4名がオーストラリア・ゴールドコーストへ渡り、次いで9月には各セクションのスタッフ合計13名が香川県高松市を訪問しました。それぞれの地域で支持を集める先進的な建築デザインや事業スタイルを目の当たりにし、そこで得た気づきや学びを日々の仕事にフィードバックできるよう、帰沖後は参加者全員がおのこの立場で一層研さんに励んでいます。



総務担当 雨瀬 美和 | 営業担当 長浜 円 | 設計担当 喜友名 勝志 | 現場代理人 数田 哲之 | 施工担当 照屋 悟



設計担当 新垣 祐太 | 設計担当 渡久地 政史

■香川県高松市視察研修の徹底が業務効率の向上につながる

9月の視察研修で訪問したのは、外装材・住設機器の販売を中心に行う「扶桑建材工業」と、その新築・リフォーム部門である「リビングココイチ」。同社は海外の住宅・建築事情の視察に積極的に赴き、そこで得た情報を日々の業務に落とし込み、順調に業績を伸ばしている会社です。7月にオーストラリア・ゴールドコーストでの研修を終えた当社は、その成功の秘けつを学ぶべく、総務・営業・設計・現場・施工のセクションから合計13名のスタッフを派遣しました。

同社が手がけた住宅・施設と本社工場内を見学し、スタッフ全員が真っ先に感じたのは、「あいさつや身だしなみといった基本的なルールはもちろん、会社が掲げる行動基準があらゆる現場に浸透し、とりわけ整理・整頓・清掃のいわゆる「3S」が徹底している」ことでした。例えば設計担当の喜友名勝志は、「移動途中に建築現場も見せてもらったのですが、その清潔さは今まで経験した中でも最高レベル。現場が一番の営業、とはまさにこのことだと痛感しました。同じように現場代理人の数田哲之、施工担当の照屋悟も、「資材置き場や仮設トイレの設置・管理方法を見ると、私たちがそろそろ準備を始めようと考えていたことが、ここでは既に実践されている

■オーストラリア・グローバルセミナー：生活イメージを高めるインテリア手法を学ぶ

ゴールドコーストはオーストラリア東部に位置する世界有数のリゾート地。年間を通して温暖な亜熱帯気候に属し、南北約60キロにわたって広がる海岸線には、有名な「サーファーズパラダイス」をはじめ幾つものビーチやサーフスポットが連なっています。

亜熱帯でリゾート地、という要素は沖縄と同じですが、まったく異なるのがそのスケール感。ゴールドコーストという一都市だけで沖縄本島より面積が広く、人口密度は約3分の1。土地が広大なら当然、そこに生まれる建築物にはゆとりやおおらかなムードが反映されて、造りにも意匠にも独特の趣向が現れてきます。

今回の視察研修で訪れたのは、住宅展示場と商業施設が中心です。住宅展示場の形態も日本とは異なり、参加した設計担当の渡久地政史、新垣祐太によると、「二つの街区を開発して住宅を造成し、売れたらその隣に同じように街区をつくって、開発・販売を繰り返すという手法でした」とのこと。ある程度の規模の住宅地が形成されれば、商業施設や公共施設も後からやって来て、結果としてそこに一つのまちができあがります。展示場を運営する側としては、来場

者に対し「いかにこの家とエリアが魅力的だと感じてもらうか」が勝負になります。そして実際に、2人が今回の研修を通じて「最も勉強になった」と口をそろえるのが、「住宅のデコレーション」にしろ植栽にしろ町並みにしろ、訪れた人をワクワク楽しませようとする心遣いが満載で、「見せ方」がとっても洗練されていたことでした。

「建物や土地のスケールが違うすぎて、同じスタイルを沖縄で導入することはほぼ不可能です。とはいえ、その中でもインテリアの手法には目を見張るものがあり、家具や小物などを効果的に配置することで、それぞれの空間でどんな生活を送ることができるのか、明確にイメージすることができました。同様に、エクステリアや町並みのプランニングも、一つ一つの住宅が最も映えるように計算して整備されていることが分かりました。今後は沖縄の風土・文化を踏まえながら、現地を見たこと、学んだことを自分たちなりに咀嚼して、お客様にプレゼンなどで説明するとき、あるいは完成見学会の開催時に、積極的に生かしていきたいと考えています。」

オーストラリアではこの他、集合住宅やインテリアショップなども見学しました。